

2017年7月 今月のトピック

『難しいと言われるファンド選びをわかりやすく するアプローチ』

アナリスト 勝盛 政治

2017年7月12日作成

難しいと言われるファンド選びをわかりやすくするアプローチ

『ポイント』

- 投資信託は5,000ファンド以上もあり、その中から選ぶことが難しいとよく言われるが、それはファンド数が多いことだけが理由ではない。
- 個人の運用の目的をわかりやすく分類し、それに適った基準でファンドを絞り込むことにより、比較的容易に望ましいファンド群に辿りつくこともできる。
- 個人が自らこれらを行うことは難しい。販売サイドでこれらの選択や誘導ができる環境を整えることにより、顧客にあったファンド提供への道筋をつけることができる。目的に適った投資信託の選択が簡単にできることが顧客本位に結び付く。
- ロボアドバイザーは機能的だが、現在提供されているものは、顧客の運用目的よりも許容リスクの把握によるポートフォリオ提案に重点が置かれている。

■ファンド選びが難しいのはなぜ？

「投資信託はファンド数が多くてどれを選んだらよいかよくわからない」といった声を耳にする。そこには、以下の課題が混在している。

- ★自分が投資信託を通じて、どのような運用を目指しているのか(整理できていない)
- ★そのためには、どういったファンド選びの基準を設ければよいのか(基準がよくわからない)
- ★そのなかで、どのファンド群が適しているのか(選び方がわからない、選ぶ術がない)

個人でこれらすべてを整理することは難しい。販売サイドが、わかりやすい運用目的を示し、それに見合ったファンド選びの基準を提示し、最終的なファンド選択の手助けをすることにより、個人が自分にあったファンド選びを納得性をもって行えることが望まれる。

■たとえば、『長期の資産形成』に向いているファンドは？

運用の目的を明確にすれば、膨大なファンド数のなかから向いているファンドを絞り込むことは可能。長期の資産形成に向いているファンドを例に、ファンドの絞り込みを考えてみたい。

- ファンドの各種属性のなかで、長期の資産形成に関係がある基準を以下にピックアップ。
 - ① ファンドの運用期間(設定来の期間) <制約条件>
 - ② ファンドの規模(純資産残高) <制約条件>
 - ③ 資産内の連動性(リターンの相関)
 - ④ 決算回数
 - ⑤ 費用(運用管理費用)

■『長期の資産形成』に向いているファンドの絞り込み 1

① ファンドの運用期間

インデックスファンドは設定間もなくとも資産との連動性が見込まれるなど、こういった運用がなされるのがある程度の見当がつく。一方で、アクティブファンドは運用実績の確認ができたほうがよく、少なくとも3年程度の運用期間があることが望ましい。

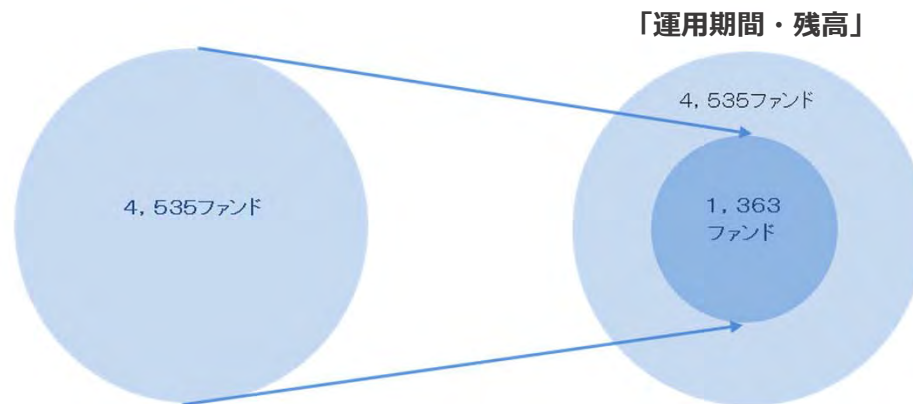
これは期間が長いほど望ましいというのではなく、一定期間を確保されていれば良い<制約条件>。

② ファンドの規模(残高)

ファンドの規模が小さすぎると、運用に制約が生じるとか、場合によっては償還の可能性も高まる。そのためにも30億円程度の純資産残高があることが望ましい。

①と同様に、残高が大きいほど望ましいのではなく、一定水準が確保されていれば良い<制約条件>。

図表1：運用期間、残高水準によるファンドの絞り込み



※ベースとなる4,535ファンドはDC専用、ETF、ラップ口座専用、公社債ファンドを除いたもの。

※運用期間はインデックスファンドは制約なし、アクティブファンドは3年以上。純資産残高は2017年4月末現在で30億円以上のファンド。

出所) 三菱アセット・ブレインズ

■ 『長期の資産形成』に向いているファンドの絞り込み 2

③ 運用実績の連動性

長期の資産形成は、投資対象の成長による収益の獲得を目指すもの。複雑な仕組みのファンドよりも、投資対象のリターンが反映するファンドの方が望ましい。そのためにも、資産の動きと大きく乖離するファンドは避け、ある程度の連動性が保たれるファンドから選ぶ方が良い。

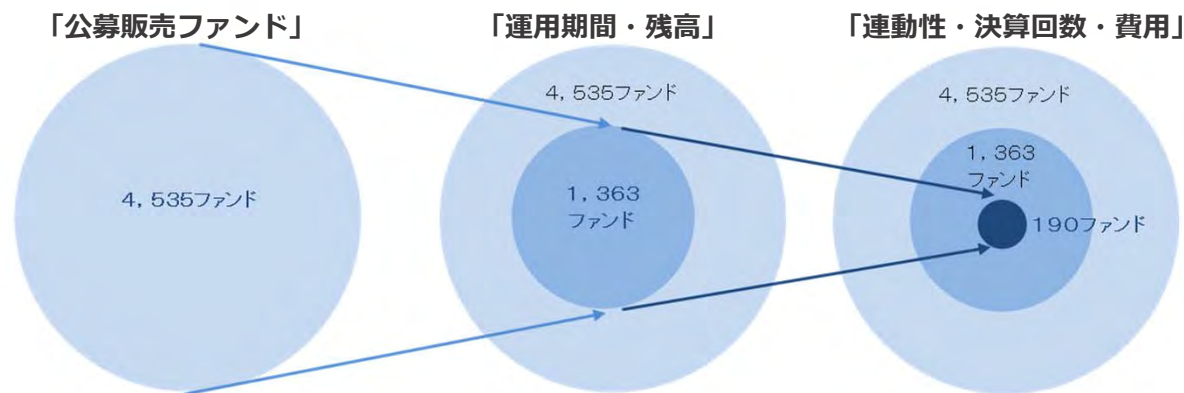
④ 決算回数

資産形成に資する投資信託の機能に再投資機能がある。近年はシニア層中心に毎月分配型のファンドの人気が高いが、年1回決算の再投資型(分配金ゼロ)で運用するファンドが向いている。

⑤ 費用

長期投資のメリットと引き換えに犠牲になるのが費用によるリターンの低下。特に、投資信託は少額から分散投資できる、再投資機能があるなど資産形成に適した機能を有している反面、ファンド運営の費用が掛かりやすい。そのためにも、できれば費用が高くないファンドから選ぶ方が良い。

図表2：運用実績の連動性、決算回数、費用水準によるファンドの絞り込み



※運用実績の連動性は、資産内の平均的なリターンとの相関が上位半分には属するファンド。決算回数は年1回ファンド。費用水準は資産内で低い方から半分以上に属するファンド。

出所) 三菱アセット・ブレインズ

■『金融リテラシーが低い』初心者に向いているファンド

『金融リテラシーが低い』初心者の条件を加味したファンドの絞り込みを考えてみたい。

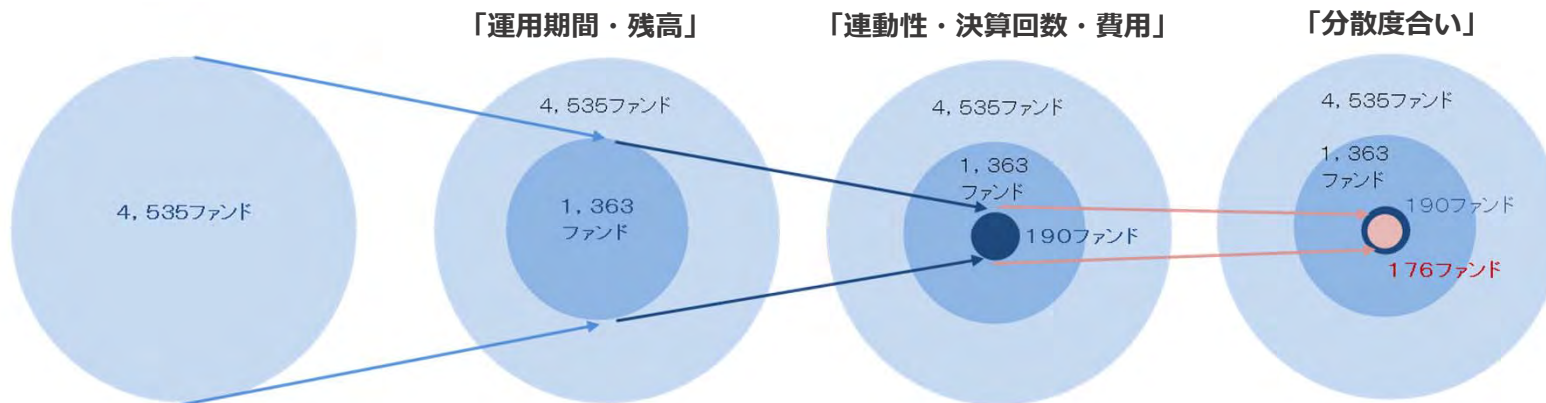
- ファンドの各種属性のなかで、『金融リテラシーが低い』に関係がある基準のなかで重要なものとして、既にみた『長期の資産形成』に加えて以下の点を考慮したい。

⑥ 分散度合い

リテラシーに照らして重要なのは、ファンドの仕組みを十分に理解できずに複雑なファンドに投資することや、想定していないリスクを受け入れること。

それらを避けるためにも、⑤運用実績の連動性ととも、⑥分散度合い(分散投資)が高いファンドが望ましい。

図表3：分散度合いが高いファンドを加えた絞り込み



※分散度合いが高いファンドは、「日本・米国を除く特定国・地域へ投資するファンド」を除外したものです。

出所) 三菱アセット・ブレインズ

■『長期の資産形成』、『金融リテラシーが低い』初心者に向いているファンド

いままでの基準を満たした各資産のアクティブファンド、インデックスファンドのファンド数は以下の通り。
最近人気が高い「セゾン投信」のファンドも入っている。

(参考までに、本トピックの末尾に下記アクティブファンドの一覧を掲載しておく)

図表4：分散度合いが高いファンドを加えた絞り込み

	アクティブファンド	インデックスファンド
国内債券	0	4
外国債券（先進国）	2	11
ハイイールド債券	1	0
エマージング債券	0	1
国内株式	16	62
外国株式（先進国）	13	17
エマージング株式	2	3
REIT・日本	2	5
外国REIT	3	3
複合資産	17	14

長期の資産形成においてインデックスファンドは有効な選択肢ではあるが、アクティブファンドの選択肢もある。

運用実績の良し悪しは基準に入れていないが、それは過去の実績は必ずしも将来を保証するものではないことによる。資産形成には過度なリターンの追求よりも、安定した投資成果の確保が優先される。

運用実績を反映させるとすれば、上記ファンドの絞り込みに加えて、運用実績が継続的に良くないファンドをネガティブチェックとして絞り込み条件に加える方法がよいと考える。

出所) 三菱アセット・ブレインズ

■『安定志向』『金利志向』に向いているファンド

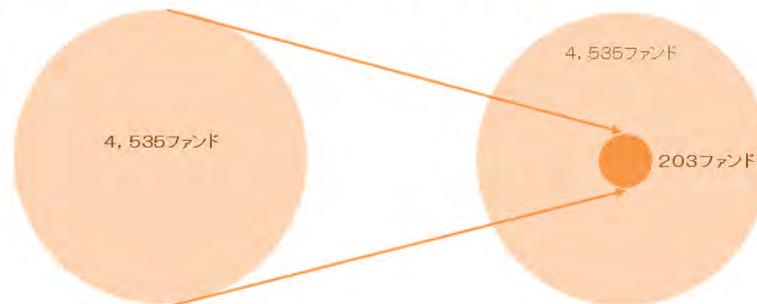
次に、シニア層のニーズが高い『安定志向』『金利志向』に向いているファンドを絞り込んでみたい。

- ファンドの各種属性のなかで、『安定志向』『金利志向』に関係がある基準を以下にピックアップ。

- ① ファンドの運用期間<制約条件>
- ② ファンドの規模(残高)<制約条件>
- ③ 対象資産
- ④ 分散度合い
- ⑤ 価格の動き(リスク水準)

①は「長期の資産形成」におけるほどの必要性はないが、リスク水準の確認のために設けておく。

図表5：『安定志向』『金利志向』に向いているファンドの絞り込み



※対象資産は国内債券を除く債券、REIT、価格の動き(リスク水準)はリターン標準偏差10%未満。

出所) 三菱アセット・ブレインズ

- これらに加え、各ファンドの最終利回り、予想配当利回りの情報があれば、さらに具体的な金利志向に絞り込むことができる。

■ファンド選びの基準例

運用の目的や個人の考慮すべき属性によって、ファンドを絞り込む基準は概ね定まってくる。下表は今回用いた絞り込みも含め、基準の一例を示したもの。

運用目的が複数に跨れば、それぞれに当てはまる基準を重ね合わせて適用すればよい。さらに絞り込みが進むことになる。

図表6：運用の目的・考慮すべき属性とファンド選びの基準例

基準 運用目的・属性	資産	リターン	価格の動き (リスク水準)	資産内の連 動性	費用	分散度合い	分配金	決算回数	人気度 (流出入)	運用期間	規模(残高)
リテラシー				●		●				条件 (パッシブ以外)	条件
年齢	●		●								
長期資産形成				●	●			●		条件 (パッシブ以外)	条件
安定志向			●			●				条件 (パッシブ以外)	条件
金利志向	●										
分配志向							●	●			
リターン志向		●							●		

本トピックでは各基準について大まかなランク付けをして絞り込みを行ったが、5分位に分けて用いるなどきめ細かな活用をすれば、顧客ニーズや販売における考え方をより反映することも可能である。

■わかりやすいファンド選び

投資信託を選ぶには運用の目的、それに適う選択基準と実際に選択できる、提案できる環境が必要になる。対面販売であれば担い手の教育によってそれらを踏まえた柔軟なアドバイスが可能だが、ネット販売においてはわかりやすい誘導が求められる。公募販売に限らずDCにおいても同様のことが言える。

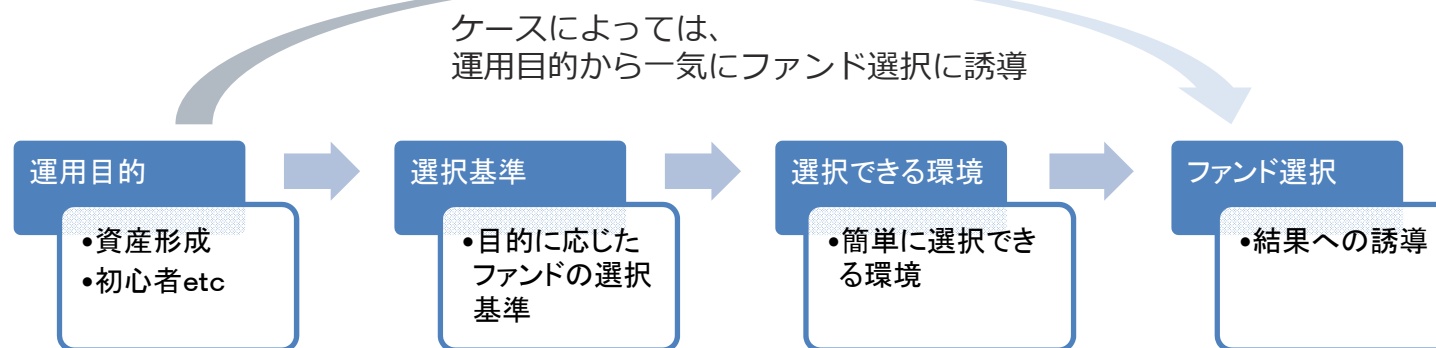
ファンドの選択においては運用実績のレーティング表示が目につくが、運用実績は過去のものに過ぎない。運用実績の利用法としては、ファンドの良し悪しの選択基準としてよりも、継続的に良くないファンドを選択肢から除外するために用いることが適しているのではないだろうか。

それよりもむしろ、目的に適った投資信託の選択が簡単にできることが顧客本位に結び付く。

ロボアドバイザーは運用がわかっている人間からみれば機能的なことが理解できるが、「インプットの質問」と「アウトプットのポートフォリオ結果」は一足飛びの感がある。また、顧客の運用目的よりも許容リスクの把握に重点が置かれている。

どういう運用目的には何を重視したらよいのか、それを簡単に選べる、提案できる環境を整えることで、顧客の理解や納得性も踏まえたファンド選びが進むのではないだろうか。

図表7：わかりやすいファンド選びの誘導



弊社では、これらに用いる各種ファンド分類のデータ等も取り揃えていますので、ご興味あればご連絡ください。

(ご参考)

今回の基準で絞り込んだ、『長期の資産形成』、『金融リテラシーが低い』初心者に向いているアクティブファンド

ファンド名	投信会社	資産分類	実質的な運用管理費用
三菱UFJ海外債券オープン	三菱UFJ国際	外国債券	1.0800
東京海上セレクション・外国債券	東京海上	外国債券	1.1232
フィデリティ・USハイ・イールド・ファンド(資産成長型)	フィデリティ	ハイイールド	1.6200
日本再興戦略株式オープン2014(なでしこ)	三井住友	国内株式	1.4580
損保ジャパン日本株ファンド	損保J日本興亜	国内株式	1.5120
フコク日本株式ファンド	明治安田	国内株式	1.5120
日興クオンツ・アクティブ・ジャパン	日興	国内株式	1.2960
コモンズ30ファンド	コモンズ	国内株式	1.2420
DIAM割安日本株ファンド(年1回決算型)	AM-One	国内株式	1.2420
しんきん好配当利回り株ファンド	しんきん	国内株式	1.0800
スーパートレンドオープン	野村	国内株式	0.8856
ハイブリッド・セレクション	AM-One	国内株式	1.1664
MHAM株式オープン	AM-One	国内株式	0.8100
三井住友・日本株オープン	三井住友	国内株式	0.8640
ニッセイ日本勝ち組ファンド	ニッセイ	国内株式	1.0800
利益還元成長株オープン(Jグロース)	日興	国内株式	0.8856
日本再興戦略株式オープン	三井住友	国内株式	1.4580
ニッセイ日本株ファンド	ニッセイ	国内株式	1.0800
さわかみファンド	さわかみ	国内株式	1.0800
ユニオンファンド	ユニオン	外国株式	0.8640
野村世界業種別投資シリーズ(世界金融株投資)	野村	外国株式	1.6200
野村グローバルSRI100(野村世界社会的責任投資)	野村	外国株式	1.0260
NN海外株式オープン(コルベッティ・ファンド)	NNインベスト	外国株式	1.6740
キャピタル世界株式ファンド	キャピタル	外国株式	1.6702
UBS地球温暖化対応関連株ファンド(クールアース)	UBS	外国株式	1.8036
JPM世界鉄道関連株投資	JPモルガン	外国株式	1.7820
三菱UFJグローバル・エコ・ウォーター・ファンド(ブルーゴールド)	三菱UFJ国際	外国株式	1.7800
東京海上セレクション・外国株式	東京海上	外国株式	1.7064

ファンド名	投信会社	資産分類	実質的な運用管理費用
セゾン資産形成の達人ファンド	セゾン	外国株式	1.3500
三井住友・バンガード海外株式ファンド	三井住友	外国株式	1.3180
日興グラビティ・グローバル・ファンド(GG10+10)	日興	外国株式	1.5768
新光シラー・ケープ米欧株戦略ファンド(リスク・コントロール付)為替ヘッジなしコース	AM-One	外国株式	1.7172
アライアンス・バーンスタイン・新興国成長株投信Bコース(為替ヘッジなし)	アライアンス	エマージング	1.8144
日興新世代新興国株式ファンド(ネクストBRICs)	日興	エマージング	1.9224
しんきんJリートオープン(1年決算型)	しんきん	REIT・日本	1.0044
ダイワ日本リート・ファンド	大和	REIT・日本	0.8532
ラサール・グローバルREITファンド(1年決算型)	日興	外国REIT	1.6200
新光US-REITオープン(年1回決算型)(ゼウスII(年1回決算型))	AM-One	外国REIT	1.6200
フィデリティ・USリート・ファンド(資産成長型)D(為替ヘッジなし)	フィデリティ	外国REIT	1.4364
世界経済インデックスファンド(株式シフト型)	三井住友トラスト	複合資産	0.5940
楽天資産形成ファンド(楽天525)	明治安田	複合資産	0.5400
AMC/ステート・ストリート・リスクバジェット型バランス・オープン(ステイブル)	Sストリート	複合資産	0.8100
グローバル・インデックス・バランス・ファンド(投資生活)	三井住友トラスト	複合資産	0.6480
インデックスコレクション(バランス株式70)	三井住友トラスト	複合資産	0.2052
インデックスコレクション(バランス株式50)	三井住友トラスト	複合資産	0.1944
インデックスコレクション(バランス株式30)	三井住友トラスト	複合資産	0.1836
ハッピーエイジング50	損保J日本興亜	複合資産	1.1988
日興アジア資産3分法(資産成長型)	日興	複合資産	1.2417
東京海上セレクション・バランス30	東京海上	複合資産	1.0260
世界経済インデックスファンド	三井住友トラスト	複合資産	0.5400
SBI資産設計オープン(資産成長型)(スゴ6)	三井住友トラスト	複合資産	0.7344
マネックス資産設計ファンド<育成型>	AM-One	複合資産	1.0260
ハッピーエイジング40	損保J日本興亜	複合資産	1.3824
のむらっぴ・ファンド(普通型)	野村	複合資産	1.3284
東京海上セレクション・バランス50	東京海上	複合資産	1.2312
セゾン・バンガード・グローバルバランスファンド	セゾン	複合資産	0.6800

出所) 三菱アセット・ブレインズ

- 本レポートに関する著作権、知的財産権等一切の権利は三菱アセット・ブレインズ株式会社(以下、MAB)に帰属し、許可なく複製、転載、引用することを禁じます。
- 本レポートは、MABが信頼できると判断した情報源から入手した本レポート作成基準日現在における情報をもとに作成しておりますが、当該情報の正確性を保証するものではありません。
- MABは、本レポートの利用に関連して発生した一切の損害について何らの責任も負いません。
- 本レポート中のグラフ・数値等は、あくまでも本レポート作成基準日までの過去の実績を示すものであり、将来の運用成果を保証するものではありません。
- 本レポートは、情報提供を目的としたものであり、投資信託の勧誘のために作成されたものではありません。
- MAB投信指数「MAB300」(以下、本指数)に関する著作権、知的財産権等一切の権利は三菱アセット・ブレインズ株式会社(以下、MAB)に帰属し、許可なく複製、転載、引用することを禁じます。また、本指数を商業的に利用する場合にはMABの利用許諾が必要です。

【照会先】

三菱アセット・ブレインズ株式会社

アナリストグループ

標(しめぎ)・佐藤・勝盛・大野

03-6721-1039

analyst@mab.co.jp

〒107-0062

東京都港区南青山1丁目1番1号 新青山ビル西館8階

TEL:03-6721-1010 FAX:03-6721-1020

URL: <http://www.mab.jp/>

金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第1085号

加入協会名 一般社団法人 日本投資顧問業協会